

令和7年（2025年）1月24日外部評価実施
少路地域包括支援センター（北中部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2024年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：64291人（前年12月1日時点64828人）

高齢者人口：16671人（前年12月1日時点16531人）

高齢化率：25.9%（前年12月1日時点25.7%）

【圏域の地域特性】

豊中市の北中部に位置しており、商店街や遊興施設等人が自然に集まれる場がなく、路線バスに乗る事が出来れば、千里中央や豊中方面に出かけられるが、バス停まで出かけられなくなると生活が大きく縮小します。交通の便がなく、坂道も多い圏域であることから、住民個々の介護予防の意識は高く、他圏域と比べ、フレイルの割合は低いです。

東豊中校区にある西谷住宅の建て替えが進んでおり、高齢者が多い市営住宅でもあり転居や住み替えを余儀なくされる方が多くおられます。

【医療・介護資源】

圏域に総合病院が1カ所、クリニックが26カ所、そのうち訪問診療を行っているクリニックは4カ所、特別養護老人ホーム4カ所、居宅事業所11カ所、通所介護・通所リハビリテーション34カ所うち地域密着型の通所介護は12カ所、認知症対応型の通所介護は1カ所あります。グループホームが4カ所、小規模多機能型施設が4カ所あります。

圏域の特徴としては一昨年に北緑丘にある548戸建ての大きな複合型の施設があり12月現在ではだいたい5割の入居率となっています。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

公的な機関として、公正、中立に順守します。住宅改修の業者の相見積もりの実施や要介護認定者の介護サービス計画に対して選定した居宅事業所を少路地域包括支援センター内で記録を点検、共有しました。

自立支援を推進するため介護支援専門員を3名配置しており、要支援の介護サービス計画をまず地域包括支援センター内で担当しました。

業務効率化を図るためスタッフ全員にパソコンを配備し、オンライン会議、ミーティングに活用しました。

総合相談支援力の向上のため、毎朝のオンラインミーティングで前日の総合相談支援ケースを共有しました。また毎月の少路地域包括支援センター会議をオンライン化し地域で得た情報等を全職員にフィードバックする事に力を入れました。

【特に力を入れて活動している点】

オレンジカフェの立ち上げを中心に認知症支援の活動に力を入れました。昨年度までは1か所の立ち上げでしたが、担当者を増やして今年度は介護施設や障害事業所等3ヵ所立ち上げ、当事者や認知症の人とその家族、障害者の方も含めてどなたでも気軽に参加出来る居場所づくりを行いました。

キャラバンメイトの養成も今年度4名増え、認知症サポーターの講師役として活動してもらう事に成功しました。また少路地域包括支援センターで行った活動をFacebookやX(旧Twitter)等で発信し、広く少路地域包括支援センターの活動周知を行いました。

【活動の中での課題やその解決策】

（課題）身寄りがない高齢者や、ご家族の支援が受けられない方が増えており、どの様に対応すればよいか、少路地域包括支援センターもどこまで対応しなければならないか、線引きが難しいケースが増えています。

（解決策）相談ケースを少路地域包括支援センター内で共有し、三職種それぞれの立場で解決に向け意見交換を行いました。早い段階から高齢者を把握するためローラー作戦や校区のなんでも相談に出向いて、福祉関係者と情報共有しました。

総評

【特徴的な取組内容】

- ケアマネジメント支援業務では、介護支援専門員が実際に困っている事例共有を行う事によって、より実務につなげられるよう配慮されています。
- 介護予防推進では、既存の通いの場や集いの場を活用し、他機能や他の目的を持った集いとする事で、参加者とグループの継続につなげられるよう取り組まれています。
- 認知症地域支援・ケア向上事業ではオレンジカフェの立ち上げ支援で地域の関係機関等にも働きかけ、様々な立場の支援者が開催するオレンジカフェが新たに立ち上がり、当事者、家族の参加拡充をめざした活動が展開されています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ケアマネジメント支援業務では、重層的支援が必要なケースに対し、対応できるケース会議・事例検討で、より多彩な知識や視点の拡充につなげられる取組みに期待します。